

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村提出日	平成22年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470700549&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 11 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位の介護を徹底しています。また、職員が活き活きと働いており、家族に向けるような優しさで接しています。望ユニットは、常に、自分が相手の立場ならどうしてほしいかを考えご支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小・中・高校に囲まれた静かな住宅地にある。設立7年目であり、管理者・職員の地道な活動により、地域の自治会にも認められ、自然なお付き合いができるようになってきている。運営推進会議も2ヶ月に1回定期的に開催し、事業所の活動報告だけでなく、いくつかの課題もテーマにし、各種意見や改善の為の提案等を頂いている。この事業所の一番いいところは「みんなの仲が良いこと」と職員が自慢するくらい家庭的な雰囲気であり、家族からも同様の声が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時、管理者、ユニット出勤者全員で運営方針・理念を復唱し、共有することで理念の理解と実践への取り組みの意識統一を図っている。	認知症ケアの基本というべき事項を理念に取り入れており、職員全員で理解・共有し毎日の具体的なケアの取り組みに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より、自治会に加入し、自治会の一員として、自治会行事(溝掃除・草刈り等)にできるだけ入居者と参加している。6年のお付き合いで、ご近所様とは自然に接して頂いている。	開設時から自治会に加入し、役員を引き受けたこともある。入居者と共に自治会活動に参加しており、地域の一員として自然なお付き合いができるようになってきている。	行事の時だけでなく、近隣の人たちが気軽に立ち寄ったり、遊びに来てくれたり「なじみ」の関係作りが望ましく、そのため地域の人々と一緒に楽しめるような行事等、更なる努力をお願いしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民のグループホームへの認識も深くなり、介護相談も受けている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告と毎回課題を設定し、職員が実践しているサービス内容について報告を行い、様々な立場からご意見や改善点等を頂き、サービスの向上に取り組んでいる。	会議は定期的開催しており、事業所からの取り組み状況の報告だけでなく、インフルエンザ対応等の具体的な課題についての意見交換もあり、地域の理解を得ると共に、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員へ事業所内の入居者・家族が抱える問題等を積極的に相談し、共に問題解決に向け取り組んでいる。また、メールでの情報交換も出来るようになり運営推進会議の課題等の情報を頂いたりしている。	何事にも気軽に相談しており、入居者家族が抱える問題にも、市職員が家族と事業所との間に積極的に入って、相談・解決等に取り組んでいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会で権利擁護や身体拘束についての勉強会を行っている。鍵をかけない工夫として見守りの徹底と所在確認を行っているが、帰宅願望の強い入居者に対し、ケアの改善で少しずつ鍵を開けている。	帰宅願望の強い入居者がおり、一時施錠をしたが、出たい時はいつでも出られるという安心感を持ってもらうことや、原因を取り除くケアを徹底して行い、ほとんど施錠しないところまで来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待についての認識の誤解がないか職員間で確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が対応をしているが、職員には、カンファレンス時や勉強会等で、実際利用している制度について常に説明を行い理解してもらった上で支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に必要と思われる事項(起り得るリスクや入院時の対応、重度化に伴う対応について等)は、時間をかけて説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時等、コミュニケーションを常に図り、話しやすい雰囲気作りを行っている。実際に出された意見や要望は、職員を通じて申し送り、サービスに反映している。	面会時や電話で話したときなど可能な限りコミュニケーションをとるように努めている。また玄関入り口に事務所があり、常駐する担当者が相談窓口としての役割もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り、職員と日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。カンファレンス時を利用し、すべて管理者が決定するのではなく、職員の思いや意見を聞き、判断するようにしている。	管理者は、まず職員の意見を聞くことを第一にしており、ユニット会議やカンファレンス会議でも、活発な意見交換や提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で職員のストレス解消に向け、悩みを聞く心理カウンセラーを配置している。また、職員が向上心を持って働き続けることが出来るように、就業規則の改定及び職場環境の改善の取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるように計画し、職員育成の為、職員一人ひとりに適した研修に参加してもらっている。また、研修内容については、カンファレンスで報告してもらい、他の職員にも伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県GH連絡協議会・松阪市GH部会があり、その中で、職員の資質の向上につながる為の研修に参加している。管理者は、松阪市GH部会の副会長として活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を心掛け、安心して頂けるよう声掛けしたり、本人に今一番必要な支援ができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞いて家族の声を受け止め、理解するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの優先順位の高いものから対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を通してお互い協力し合い、楽しく安心して暮らせるよう声掛けなど行い、配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を家族にも伝え、本人を支えていく為の協力関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方が面会にみえることがある。自由に面会に来て頂き、継続的な交流が図れるようにしている	人によっては馴染みの場所や人に会うと、混乱される方もおり、事業所で慎重に判断し、個人個人に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外で皆で一緒に過ごす時間を作ったり、入居者同士の間を取り持ったり、関わりを持って頂けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したから縁が切れるという訳ではなく、相談事等あれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人を見たり、傾聴し、気持ちを受け止めるようにしている。困難な場合は職員同士や御家族に相談するようにしている	常日頃の何気ない会話から、ポロツと出る思いや意向を大切に聞き出し、センター方式の用紙に書き込んで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の情報を見たり、家族の方に話を聞かせて頂き、本人のこゝろを知るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の力やその日の状態に合わせて一日を過ごして頂いたり、コミュニケーション等の中から気づきを収集し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からも要望を聞き、反映させるようにしている。カンファレンスにて皆で意見交換やモニタリングを行っている	一人の職員が一人の利用者を担当する制度を採用している。まず職員が計画案を立て、家族や関係者の意見を採り入れながら、職員全員で検討し立案している。定期的には3ヶ月毎に、変化時は随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に気付いたこと、状態など記録し、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に大事なこと、必要なことを考え、柔軟な対応をするようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域支援センターの方にも参加して頂いている。支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。受診も家族の希望に応じて対応している。介護士または看護師が受診に付き添い普段の様子や変化を伝えるようにしている	本人・家族の希望のかかりつけ医としているが、入居者の約半数は往診のある協力医にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態や変化などその都度、看護師に相談、報告し、適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と相談しながら対応したり、病院側、ホーム側とお互いに情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時、重度化や終末期に向けたホームの考え方をご理解頂いている。、現状を常にご家族に報告し、病院受診時も連絡を取り、受診結果等を報告している。その上でご家族の意向を踏まえ主治医、地域関係者と支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族に重度化・終末期に向けての事業所の方針を説明している。終末期の経験もあり、医師・看護師と連携を取りながら、取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがある。定期的な訓練は、まだまだ十分ではないので、今後定期的な訓練を内部研修会で行っていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間の防災訓練を行ない、通報、初期消火、避難誘導、避難経路の確認を行っている。自治会にも参加を呼びかけ、消防署の協力も得て、毎回消火器の使い方の指導もして頂いている	消防署の協力も得て、防災訓練(消火、避難、通報)は熱心に行っており、夜間訓練も実施している。	マニュアルもあり年2回キチンと訓練されており、ぜひ危機感を持ち継続していただきたい。更なる取り組みとして、真夜中の職員一人の時を想定した訓練や、万が一の時の救急救命やAEDの設置の検討もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築きつつ相手を敬う気持ちを常に持って、お一人お一人に合った対応ができるように努めている	「自分の身に置き換え、嫌なことはしない」と、徹底しており、特に言葉かけには注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや要望にその都度対応し、なるべく本人に決定して頂く様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、お一人おひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で、職員が髪染めを行なっている方もみえ、できるだけ本人の希望に添えるよう支援している。また、ご自分では難しい方も職員が気を配り、身だしなみを行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等入居者と共に行い、入居者と職員が同じテーブルを囲んで食事も行なっている	食材の購入から調理の準備、盛り付け、食器洗いなど、出来る人は職員と一緒にやっている。食事は利用者、職員一緒に同じものを食している。またおやつ作り等もみんなで楽しく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量共に摂取量をチェック表に記入し把握している。その方に合った量や、食べやすい形状を考え食べて頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声掛けをし、できない方には職員が介助し、毎食後口腔ケアを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら個別にタイミングを計り、トイレで排泄できるよう誘導を行っている	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に合った誘導の仕方をする事により、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂って頂けるよう献立作りに注意し、水分摂取も個別に気をつけている。また、看護師に出にくい方の対策を相談し、予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間帯の入浴は行っていない為、希望に添えていない方もあるが、日中は曜日を決めず毎日入浴できるようにし、個人の希望に合わせて入浴して頂いている	毎日入れる体制をとっており、朝から夕方まで、好きな時間に入れるよう支援している。入りたくないという入居者に対しても、個々に沿った工夫で入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で休みたい方は自由に過ごして頂いている。休息が必要な方には、介助して休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを基に注意を払いながら服薬して頂き、与薬チェック表に記入する。個人の処方一覧表が個人ファイルに入れてあり、日常的に確認できるようにしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った家事など手伝って頂いたり、レクや散歩など気分転換をして頂いている。また、食べたいものなど希望される時は、その都度対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「編み物の鉤針が欲しい」、「おすしが食べたい」、「パンとあめが欲しい」等の希望には、その都度個人支援を行なっている	入居者各人の希望や好みに合わせ、外食、買物、ペットショップ、100円均一の店等の外出をしたり、季節の花見やイチゴ狩り等はみんなで出かけている。また天気の良い日は近所の散歩も日常的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行なっているが、個人が使用することを希望する時は、本人の意向に合わせ使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望に対しては事務所で対応している。希望する個人に合わせ、電話をかける所までは職員が行い、本人と代わって話して頂いたり、職員が希望を伝えたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節感のある作品を飾ったり、朝日の当たる窓辺にベンチを置いたり居心地良い空間作りをしている	2つのユニットの真ん中に「中庭」があり、春から夏にかけて花や野菜が植えられ、観察日記を付ける入居者もある。この中庭があるので、みんなが集まる居間兼食堂も明るく、風通しも良く、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで、ゆっくり新聞を読んだり、仲の良い入居者同士が話をしたり、畳コーナーに腰を掛けたりして思い思いに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを置いて頂いたり、仏壇を置かれたり、自分で作った作品や好きな俳優の写真を壁に貼ってみえたり、過ごしやすく、使い勝手の良いようにして頂いている	大きな仏壇のある部屋や、ベットの部屋もあれば畳の部屋もある。それぞれの入居者が好みの部屋作りをされており、居心地の良さが感じ取れる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場の手摺りを増設し、自立した生活が送れるように、トイレに「便所」のプレートを付けたり、各居室の入り口に表札を付けてわかりやすくしている		